



神戸大学大学院
人間発達環境学研究科

Graduate School of
Human Development and Environment

2022

人の発達、人間の発達を 支える環境

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生（well-being）の実現を目指して「知」の構築を行います。

人間発達環境学研究科は、well-being 社会の創造を担う人材を養成します。

◎課題解決のために多様な人々と実践的に協働し、リーダーシップを発揮できる人材

◎幅広い視野と深い専門的知識を持った高度専門職業人や研究者
（進路：民間企業、NGO、NPO、公的機関、研究教育機関等）

アドミッション・ポリシー

入学受け入れ方針

人間発達環境学研究科は、人間の発達およびそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

人間発達環境学研究科の求める学生像

- 1 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
〔求める要素：知識・技能〕
- 2 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
- 3 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 4 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

人間発達環境学研究科は、2021年4月1日より、次のように教育組織の改編を行いました。

研究科改変前（～2020年度）				研究科改変後（2021年度～）				対応する学部組織	
専攻	講座			専攻	講座	教育研究分野		国際人間科学部の学科	
人間発達	こころ系		→	人間発達	人間発達	心理系	←	発達コミュニティ 子ども教育	
	表現系					表現系			
	からだ系					行動系			
	学び系					教育系			
専攻	講座	教育研究分野		専攻	講座	教育研究分野		国際人間科学部の学科	
人間環境学	環境基礎論	自然環境論	→	人間環境学	人間環境学	環境基礎科学系	←	環境共生	
		数理情報環境論				環境形成科学系			
	環境形成論	生活環境論			環境先端科学 （連携講座 後期課程のみ）	環境先端科学			
		社会環境論							
	環境先端科学 （連携講座 後期課程のみ）	環境先端科学							



Contents

研究科長からのメッセージ 2

教育プログラムの概要 3

カリキュラム 4

大学院生の研究活動 8

学術交流 10

社会貢献・地域貢献 12

人間発達専攻 14

人間環境学専攻 20

主な協定校 26

キャリア教育、施設紹介 27

学生募集、沿革 28

アクセス 29

研究科長からのメッセージ



青木茂樹 教授
人間発達環境学研究科長

近年の情報通信技術をはじめとする科学技術の進化やグローバル化の進展は、経済・社会のルールを急速に変化させ、ライフスタイル、人間と社会の在り方、国家間の関係などに影響をおよぼし、地球規模の課題をもたらしています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、分断や格差が拡大しつつあります。加えて新型コロナウイルスの感染拡大は、これらの問題の深刻さを顕在化させています。このような状況下では、人間の発達すなわち一人ひとりの人間が潜在的に持つ多様な能力を発現することが妨げられることが危惧されます。「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という問いと向き合い、より善き生（well-being）の実現を目指した「知」の構築が求められています。

人間発達環境学研究科は、こうした要請に応えるため2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の「発達」や「環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、そのプロセスを取り巻く環境に関する教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会（ヒューマン・コミュニティ）の創成を目指して、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達とそれを支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、心理系、教育系、表現系、行動系の各学問分野から「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、自然科学、数理情報科学、生活科学、社会科学の各学問分野において、「人間の発達を支える環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して総合的に教育研究を行います。

本研究科では、次の三つの特色を意識して教育研究活動にあたっています。

第一に、学際的・総合的であるという点です。本研究科では、異なる専門分野間の連携や複数分野での協働をとおして、複雑化・重層化する人間の発達や環境に係る様々な課題に対し、多面的・総合的・包括的な研究を推進しています。

第二に、実践的・応用的であるという点です。本研究科では、現代社会に生起する様々な問題の解決を目指し、関係者と協働しながら有効な解決方法を開発するアクションリサーチの手法を用いた研究を実施しています。特に研究科附属の発達支援インスティテュートでは、「大学と地域とを結ぶプラットフォーム」として、教育・研究・社会貢献を一体的に進めています。

第三に、国際的であるという点です。本研究科では、海外の大学との学術交流を促進するとともに、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を進める取り組みを「グローバルリサーチ演習」という科目の中で実践し、教育研究の国際化を推進しています。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現を目指し、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の未来社会において、well-beingが重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。

みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、ともに歩んでいただきたいと願っています。

教育プログラムの概要

幅広い視野を持って well-being 社会を創造する実践型リーダーの育成のために——理論と実を往還する課題解決型教育プログラム

◎学問領域複合型教育

人間発達専攻 →詳細は p.14

学位：修士（学術）、修士（教育学）、博士（学術）、博士（教育学）

人間発達講座

『人間の発達』に関して、「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という視点から、総合的かつ高度な文理融合型専門教育を提供します。

教育研究分野

- ◎心理系
- ◎表現系（表現創造、表現文化）
- ◎行動系
- ◎教育系（教育科学、子ども発達、発達支援）

臨床心理学コース

公認心理師（心理臨床の国家資格）および臨床心理士（心理臨床の高度専門職）資格認定試験の受験資格が取得可能です。

発達支援1年履修コース（社会人対象）

発達支援に関する実践的教育（1年で修士号取得が可能）を行います。

人間環境学専攻 →詳細は p.20

学位：修士（学術）、修士（理学）、博士（学術）、博士（理学）

人間環境学講座

『人間の発達を支える環境』に関して、「人間の発達を促進し、支援する環境要因の解明」という視点から、総合的かつ高度な文理融合型専門教育を提供します。

教育研究分野

- ◎環境基礎科学系（自然環境論、数理情報環境論）
- ◎環境形成科学系（生活環境論、社会環境論）

環境先端科学講座（連携講座）（後期課程のみ）

環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関と連携します。

◎Action Researchを通じた実践型教育

研究科横断型教育プログラム →詳細は p.4

ESD サブコース

持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の理論と実践について学ぶ研究科横断型教育プログラムを提供します。

発達支援インスティテュート →詳細は p.12

人間発達に関する教育研究、実践的研究を行い、地域との連携を進め、多層・多層的なコミュニティを創成し、社会貢献を行います。

- ユニット
- ◎ヒューマン・コミュニティ創成研究センター
 - ◎心理教育相談室
 - ◎サイエンスショップ
 - ◎教育連携推進室
 - ◎アクティブエイジング研究センター

カリキュラム 博士課程前期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成を目指しています。このため、本研究科では、個々の学生が在学中のあらゆる機会を通じて知識、スキル、能力、資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、能力開発支援型の教育プログラムを提供します。

教育・研究のポイント

徹底した基礎的・実践的教育

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクションリサーチの技法など、研究の基本的手法を修得し研究能力の基礎を固めます。さらに「特別研究Ⅱ」において、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際的手法を修得します。

個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、各専攻において専攻共通科目を置いているほか、個々の研究課題に応じたコースワークが可能となるように、基礎科目、展開科目および関連する専門科目から構成される、積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。

ソフトスキルや社会人基礎力の育成

研究会、セミナー、修士論文発表会などの教育研究活動において、「参加」「運営」といった役割を担うことにより、コミュニケーション能力、ネゴシエーション能力、企画力、マネジメント能力、チームワーク力、リーダーシップ力といったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成する教育

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、発達支援インスティテュート（p.12参照）を活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

持続可能な開発のための教育プログラム「ESDサブコース」を設置

「持続可能な開発のための教育（ESD = Education for Sustainable Development）（※）」の理論と実践について学ぶことを目的にしたESDサブコースを設置しています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成を目指しています。海外へのスタディツアーや国際会議への参加を促すプログラムや、ESDに関連する多領域の研究に幅広く接する授業、外国語でのコミュニケーションに馴染む授業などによって構成されています。このサブコースの修了生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

※地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD（Education for Sustainable Development）といいます。



カリキュラム構成

		1年次	2年次
研究科共通科目 人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる深い学識の涵養を図る		ヒューマンコミュニティ創成研究 A、B ESD 研究 1、2 特別研究 I	ESD 研究演習 1～4 特別研究 II
専攻共通科目 総合的かつ高度な専門的学識の涵養を図る	人間発達専攻	グローバルリサーチ演習 I	
	人間環境学専攻	グローバルリサーチ演習 I サイエンスコミュニケーション演習 インターンシップ IA、IB、IC	
専攻専門科目 諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる能力を身につける	人間発達専攻	人間発達専攻の主な専攻専門科目については、p.15をご覧ください	
	人間環境学専攻	人間環境学専攻の主な専攻専門科目については、p.21をご覧ください	
修士論文 各専門領域において諸課題を捉え、実践的に解決できる専門的学識と実践能力を身につける			

学位取得のプロセス

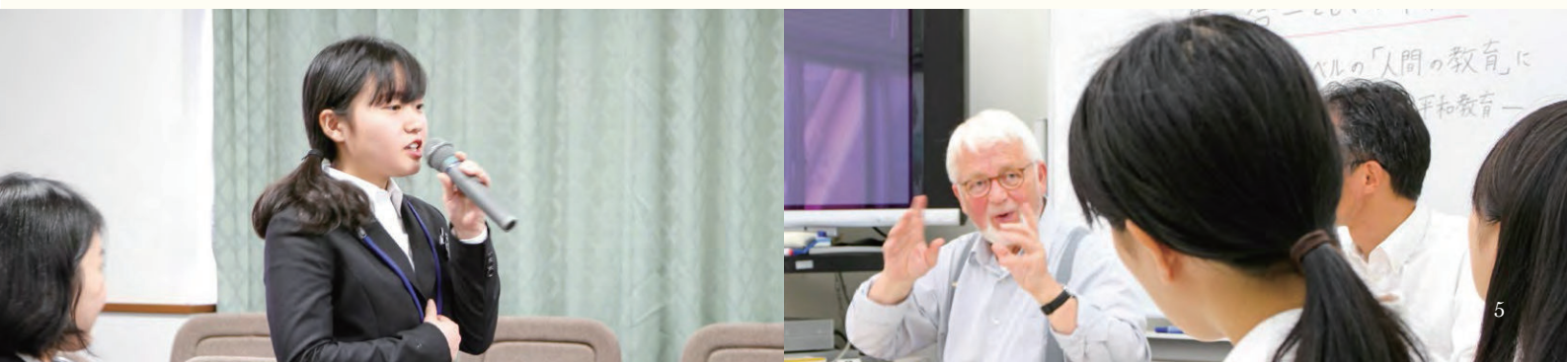
前期課程2年10月…………… 修士論文題目の提出（16単位以上の修得が必要）
 前期課程2年 1月…………… 修士論文の提出
 前期課程2年 2月…………… 最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査および最終試験に合格しなければならない。

修士論文題目

修士論文の例については、各専攻のページ（人間発達専攻はp.16～19、人間環境学専攻はp.22～25）を参照してください。過去の修士論文題目については、次のページをご覧ください。



カリキュラム 博士課程後期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成を目指しています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身につけます。

教育・研究のポイント

専門力量を深化させる教育

各専攻の専門科目において、高度な研究能力や諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる専門的力量、また多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を修得します。

実践的研究能力に磨きをかける教育

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展を目指します。研究科共通科目「特別研究Ⅳ」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際レベルの論文作成能力を養成します。

体系的な博士論文作成指導システムの提供

後期課程の3年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文、公開最終試験）を採用しています。

実践的な教育力の開発支援

大学教員を目指す学生に対して、学部教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」を設置し、実践的な教育力の開発を支援します。



カリキュラム構成

	1年次	2年次	3年次
研究科共通科目 研究を自立して行う能力や人間の発達に関する共同研究や学際研究を企画・組織する能力、また大学教員としての教育力を涵養する	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅳ	教育能力養成演習
専攻共通科目 多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を涵養する	グローバルリサーチ演習Ⅱ		
専攻専門科目 各研究分野に関連した高度な研究能力や諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる専門的力量、また多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を修得する	主な専攻専門科目については、各専攻のページ （人間発達専攻はp.15、人間環境学専攻はp.21） をご覧ください		
博士論文			

学位取得のプロセス

後期課程1年 4月末…………… 博士論文構想の提出
 後期課程1年 2月末…………… 基礎論文の提出
 後期課程1年 3月…………… 基礎論文の審査
 後期課程2年 1～3月…………… 予備審査論文構想発表
 後期課程3年 10月1日まで…… 予備審査論文の提出
 後期課程3年 10～11月………… 予備審査論文の審査
 後期課程3年 1月17日まで …… 博士論文の提出
 （12単位 以上の修得が必要）
 後期課程3年 2月…………… 博士論文の公開、審査、最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士論文の題目



大学院生の研究活動

前期課程



本当に必要な人に
支援を届けるために

出口美咲

所属：人間発達専攻 心理系（臨床心理学コース）前期課程2年
研究分野：臨床心理学

私は将来、心理職として人々の支援ができたらと思い、臨床心理学コースで学んでいます。その中で考えたのは、支援者の技術向上はもちろんのこと、そもそも支援の機会を作るには人々が相談に来てくれることも重要で、それを促すにはどうすべきか考える必要があるのではないかと思います。困った時、誰かに相談し助けを求めること、すなわち援助要請をすることは生きていく上で不可欠と思われていますが、中には相談しようとしにくい・できない人もいます。悩みや症状が深刻な人ほどその傾向が強いとも言われます。こうした人々がなぜ援助要請を避けてしまうのかを明らかにすることで、本当に必要な人に支援を届けやすくなるのではないかと思います。研究を進めています。



音楽教員の即興演奏
能力向上を目指す

大森響介

所属：人間発達専攻 表現系 前期課程2年
研究分野：音楽教育、即興演奏

私は音楽教員の即興演奏能力育成方法について研究しています。即興は、創作（音楽づくり）の授業のみでなく、歌唱や器楽での伴奏時などの音楽の授業のあらゆる場面で音楽教員に求められる能力です。しかし、これまでの音楽教員養成課程では正確な読譜や楽譜の忠実な再現ばかりが重視され、即興はあまり扱われてこなかった歴史があります。また、それによる音楽教員の即興の苦手意識や経験不足も指摘されています。音楽教員が即興演奏を苦手としている要因を明らかにし、音楽教員に求められる即興演奏能力とはどのようなものか、そしてどのようなテキストやプログラムを用いた実践を行えば即興演奏能力が身につくかについて研究しています。将来はその場の瞬間に奏でる音楽の楽しさを伝えられる魅力的な音楽教員を目指しています。



「笑い」を通して
人々を健康に

関山紗英

所属：人間発達専攻 行動系 前期課程2年
研究分野：社会心理学、老年学

私の研究テーマは「笑い」です。どのような要因が高齢者の笑いを促進するのかについて明らかにし、高齢社会における健康寿命の延伸に役立てたいと考えています。そのために、高齢者施設においてフィールドワーク調査を行い、入居者の笑いや会話の内容、心理的な特徴といったデータの分析を行います。このような研究は日本ではあまり行われておらず、一筋縄に行かないことも多々あります。しかしその度に、専門分野の内外に問わず、多角的な視点から知見を得られる本研究科の環境に助けられ、刺激的で楽しい研究生活を送ることができています。将来は、「高齢者」や「老いること」に対する世の中のイメージをよりポジティブにできるような仕事がしたいと考えています。



大阪における子どもの
貧困の歴史的研究

肥後綾華

所属：人間発達専攻 教育系 前期課程2年
研究分野：教育学

私は、子どもの貧困問題の歴史について、明治期の石井十次の取り組みに注目して研究しています。子どもの貧困は、近年になってようやく取り上げられるようになりました。しかし、これは新しい問題ではなく、日本が近代化し資本主義社会に参入したころから続くものです。特に大阪では農村から多くの人が流入し、都市下層民として生活することになりました。そのような人々の子どもたちに教育を施し、日本の未来を切り開こうとした石井十次の精神は、その後の社会福祉・児童福祉に多大な影響を与えています。過去と現在では社会的な状況が大きく異なりますが、厳しい状況を変えた先人の教えが今の教育にも生きると考え、今後も研究を続けていくつもりです。

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達およびそれを取りまく環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応出来る行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。

後期課程



コンピュータに 数学をさせてみよう

大島谷 遼

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系 前期課程2年
研究分野：数式処理

私は、数式処理という分野を専攻しています。数式処理とは、コンピュータを用いて方程式の因数分解やその他の代数計算を効率的に行うことを目的にした分野です。特に、グレブナー基底という数学的に重要な理論のアルゴリズムを研究しています。またグレブナー基底は主にコンピュータで計算されるため、コンピュータの性質を理解してアルゴリズムを設計する必要があります。これまでは主に紙とペンで行っていた数学を、コンピュータを交えて行うことに面白さを感じています。これらは将来活かせる経験だと思いますし、現在も興味の赴くままに研究をすることができて楽しいです。



衣生活の可能性を 広げる

張 皓

所属：人間環境学専攻 環境形成科学系 前期課程2年
研究分野：衣環境学

人間の触覚は複雑です。繊維製品や他の材料を触る時、認知だけではなく、感性的にも影響を受けます。より快適な繊維製品を作るため、客観的な評価指標が必要です。今までの繊維製品の評価は主に物理評価と官能評価でしたが、私は神経生理学的視点から、脳波を用いて新しい評価指標を作ることを目指して研究を行っています。昨年はコロナ禍の中で、1ヶ月のオンラインインターンシップに参加し、ダイキン工業株式会社で、「執務空間の温度と気流がマスク着用時の快適感と作業効率に及ぼす影響」について研究するという体験をしました。生活に密着した様々な未来の課題に対応するため、各分野の融合をはかりながら学際的な研究ができる専攻であると思います。



実践的な研究から 理論的な研究へ

瀬川千裕

所属：人間発達専攻 教育系 後期課程2年
研究分野：教育方法学

私は、3年間、公立小学校に勤務していました。教員として勤務する傍ら、2つの民間教育研究団体に所属し、実践的な研究を積み重ねてきました。1つは教育目標・評価について研究する団体、もう1つは「書くこと」の教育について研究する団体です。私は、実践的な研究に取り組むなかで、理論的な研究の必要を感じるようになりました。なぜなら、実践を深めたり価値づけたりする枠組みが十分ではないからです。教員としての経験や民間教育研究団体における活動を踏まえて、大学院では生活綴方の研究をしています。生活綴方とは、文章表現指導をつうじて子どもの認識と表現の力を育てる教育方法です。私は、生活綴方の歴史に関する研究を通して、実践をとらえる枠組みを提示することを目指しています。



今の景観を 後世に残すために

矢井田 友暉

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系 後期課程2年
研究分野：群集生態学

私の研究領域は植物の群集・保全生態学です。絶滅の危機に瀕している植物種が、現在どのような環境に残っているのか、これからどう保全していけばよいのかについて研究をしています。花が咲き始める頃に紙とペンを持ち草原へ駆け出し、研究室に戻ってデータの解析をし、植物の多様性と環境との関係を見つけ出していきます。生物多様性の減少は現代社会が抱える問題のひとつです。今我々が見ている多様性に溢れる景観を後世まで繋いでいくため、人間活動により時時刻々と変化していく生育環境をモニタリングし、植物の多様性を維持しているメカニズムを解き明かすことを目的に日々研究に励んでいます。

学術交流 領域を超えた学生主体の研究実践

人間発達環境学研究科では、多様な専門領域における実績を土台に、人間の発達及びそれを支える環境に関わる特色ある実践的な学際共同研究を推進しています。学生はこれらの研究に主体的に参加するほか、これに伴って行われる多くのシンポジウムや研究集会などの学術交流の開催に積極的に加わります。国内外の多様な専門家との議論や異なる分野の取り組みへの参加を通じた学際性の経験を、自らの研究に活かしていきます。

学術

Weeks

本研究科の国際交流推進の一環として学術Weeksを設置し、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。教員のみならず、大学院生や学部生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを習得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。



主な学術Weeks企画イベント（2020年度開催）

- ◎ ギャラリー・ヘロルド・ブレイメン：地域とアーティスト・コミュニティ
- ◎ Where there is a will, there is a way: Current status and issues of education in England
(意志あるところに道は開ける：イギリスの教育の現状と課題)
- ◎ 高校生・私の科学研究発表会——理科研究！発表したい人集まれ！
- ◎ 寿命観と貯蓄行動
- ◎ 自閉スペクトラム症と知的障害で「私」の発達はあるのか？
——心理療法と発達研究の視点から
- ◎ オンラインならではの音楽・アートの発信方法の実践



研究道場

人間発達専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、本研究科の教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制「研究道場」を整備しています。道場特別講義等を通して、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を修得するようにします。





学術Weeks イベント

ギャラリー・ヘロルド・ブレーメン： 地域とアーティスト・コミュニティ

オーガナイザー
野中哲士

ブレーメン中央駅の隣にある巨大アートハウス、ギューターバンホフにはアトリエ、劇場、ボルダリングジムやアートギャラリーなどが集まり、独自のコミュニティを形成しています。この企画では、ブレーメン（朝）と神戸（夜）をリアルタイムでつなぎ、ギューターバンホフとギャラリー・ヘロルドの運営に関わる2人のドイツ人アーティスト、ノーベルト・パウアー氏、マリオン・ボーゼン氏を迎え、彼らのコミュニティとギューターバンホフの仕組みについて報告してもらいました。神戸からは神戸のC.A.P（芸術と計画会議）代表の下田展久氏と、神戸大学の学生が参加し、活発なディスカッションが行われました。

学術Weeks イベント

Where there is a will, there is a way: Current status and issues of education in England

（意志あるところに道は開ける：イギリスの教育の現状と課題）

オーガナイザー
川地亜弥子

第1部の金子ひとみ氏の講演「ロンドン補習授業校での国語教育の実践を通じて」では、年間40回の日本語（「国語」）の授業について、「絵本作り」と「家庭学習ノート」を中心にお話し頂きました。継承語の教育として、日本語学習への動機を重視していること、他者への共感（「怨」）を基本に置いていることが語られました。第2部のFiona Pullen氏と金子氏の対談「イギリスのメインストリームの学校におけるインクルージョンの経験」では、場所を共有すればそれだけでよいのではなく、一人一人が互いに協力することの重要性や、障害の社会モデルについて深めました。日本から48名、イギリスから23名の参加を得て、活発な議論が行われました。

主な研究道場特別講義（2020年度開催）

- ◎大規模調査の視点で見た新学習指導要領
- ◎ESDを取り入れた理科教育の研究と実践
- ◎マンガケースメソッド——経験授業を実践するための一方法
- ◎「科学のメディアリテラシー」の検討
- ◎サイバーフィジカル概念に基づくインタラクティブ学習支援システム（第1部・第2部）
- ◎国際バカロレア校の教育理念・指導と高等教育への接続について
- ◎変動する大学入試——資格か選抜か
- ◎Educational reform and teacher education



社会貢献・地域貢献 大学と社会をつなぐプラットフォーム「発達支援インスティテュート」

人間発達環境学研究科の附属研究施設である発達支援インスティテュートは、「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティの創成および社会貢献に資すること」を目的とし、本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つのユニットから構成されています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center>



ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。

活動例

ESD（持続可能な開発のための教育）ネットワーク支援プロジェクト

ESDに関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進します。北東日本大震災の被災地の支援活動やハンセン病療養所邑久光明園の協力のもとで「持続可能な島づくりプロジェクト」等を実施しています。

障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペース あーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、障害のある人々を排除しないインクルーシブな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

農村部における自然共生社会の探求

人と動物たちが共生できる社会を目指して、野生動物管理という生態学的な観点と、私たちの暮らし方を見直すという社会教育学的な観点の両面から、研究と実践を行っています。

ジェンダー・コミュニティを考える哲学対話プログラム

女性・シングルマザーの支援をしているNPOや「のびやかスペース あーち」にて哲学カフェを開催しています。日常生活で抱えているジェンダー問題をテーマに対話を行っています。

心理教育相談室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/psycli>



心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と臨床心理士、公認心理師養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース（前期課程）の大学院生が臨床心理士・公認心理師の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。

活動例

臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約1000件の相談面接を実施しています。

臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員はスクールカウンセリング、各種研修会における講師等、さまざまな地域貢献・社会貢献活動をおこなっています。また、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター「のびやかスペース あーち」において相談室主催の子育て支援セミナーを毎年開催しています。

サイエンスショップ

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop>



サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家（科学者、技術者など）の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。

活動例

社会における市民の科学活動支援

サイエンスカフェは、街のカフェなどで、科学者等の専門家と市民が科学・技術などに関する話題について語るイベントです。「サイエンスカフェ神戸」を開催するほか、兵庫県内を中心に各地で市民によるサイエンスカフェの企画・開催を支援しています。



教育連携推進室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/coedu>



近年、大学に対して期待する声が高まっている、初等中等教育との連携に係る社会貢献へ要望と、本研究科に長年にわたり蓄積された学問的成果を踏まえ、教育連携推進室は、高等学校をはじめ小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と協力し、高大連携事業の推進や、初等中等教育に対する支援および学校教育・社会教育における連携事業を行っています。

活動例

参画型実践研究を基盤とする 高度教員養成プログラム

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成は極めて重要な課題であり、その解決に資するため、附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究を通して、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。



アクティブエイジング研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/kaarb>



人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関（WHO）が掲げる「アクティブエイジング（活力ある高齢化）」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、この研究のアジアのHubを目指しています。

活動例

鶴甲いきいきまちづくり——アクティブエイジングを目指して

住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立

高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト

関西ワールドマスタースゲームズ2021レガシー創造支援研究

高齢期の認知・感情・意思決定に関する研究

サードエイジのサクセスフル・エイジング・モデル構築プロジェクト

活動的な生活習慣と健康増進プロジェクト

アクティブライフ評価と健康寿命の延伸・認知症予防対策

更年期女性の身体的変化と心理的適応

高齢者の住まい方とエネルギー消費との関係性に関する調査

高齢・持ち家社会における住宅相続の増大と階層化



人間発達専攻

人間発達講座

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識および創造的な研究能力を持つ自立した研究者、または研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、心理系、表現系、行動系、教育系という各系の方法および視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。

本専攻では、包摂する学問領域の広さから、修了生は多彩な進路で活躍することが期待されます。いずれの進路をとるにせよ、人間発達にかかる豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることが期待されます。前期課程では、人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。また、後期課程では、自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、コミュニティ創成の研究を主体的に展開できる研究者や大学教員を養成します。

教育研究分野

心理系

心身の発達や健康に関連するさまざまな要因と複雑な相互関係といった人間の心理の包括的な観点から、深い専門性をもって人間の発達について実証的に追究します。

- ◎発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害心理学、発達障害臨床学、健康心理学、生理心理学
- ◎臨床心理学、発達臨床心理学、カウンセリング

行動系

行動系分野では、人が生涯を通して健康で活動的な生活を送るために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達と加齢などに関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

- ◎公衆衛生学、運動生理学、運動生化学、応用生理学、身体システム学、スポーツバイオメカニクス、運動・スポーツ心理学、体育・スポーツ史、加齢の身体運動科学、社会老年学、加齢の認知心理学、レジャー・スポーツ老年学、老年行動学

表現系

人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、表現実践を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

- ◎表現創造（舞踊学、音楽療法、即興演奏、美術・絵画表現）
- ◎表現文化（音楽文化史、民族音楽学、近代建築史、ファッション文化論、社会情報学、認知科学）

教育系

教育および学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるところおよび諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

- ◎教育科学（科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、西洋教育史、教育哲学）
- ◎子ども発達（身体発育論、数理認識論、児童文学、美術教育学、発達心理学、家族関係学、乳幼児教育学）
- ◎発達支援（生涯学習論、社会教育論、障害共生支援論、ボランティア学習論、ジェンダー論、自然共生論、子どもコミュニティ支援論）

履修コース（前期課程のみ）

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験および公認心理師試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

取得可能な資格免許

幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、高等学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、特別支援学校専修免許状、臨床心理士試験受験資格（※1）、公認心理師受験資格（※1）（※2）

発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

修了後の進路

資格免許の取得状況



※1 臨床心理学コースのみ

※2 学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります。

カリキュラム（主な専攻専門科目）

教育研究分野	前期課程	後期課程
心理系	臨床心理検査特論Ⅰ-1、2（心理的アセスメントに関する理論と支援の展開1、2） 発達障害心理学特論Ⅰ-1、2（教育分野に関する理論と支援の展開1、2） 芸術療法特論Ⅰ-1、2 健康教育学特論Ⅰ-A、B（心の健康教育に関する理論と実践1、2） 心理療法特論Ⅰ-1、2（心理支援に関する理論と実践1、2） 人格形成特論Ⅰ-1、2 教育発達心理学特論Ⅰ-1、2 自己形成特論Ⅰ-1、2 心理統計法特論 人間発達特論Ⅰ-1、2 健康行動科学特論Ⅰ-1、2（心の健康教育に関する理論と実践1、2） 臨床心理学特論Ⅰ-1、2 臨床人間関係学特論Ⅰ-1、2（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践1、2） 発達障害臨床学特論Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理実習Ⅰ-1、2（心理実践実習Ⅱ） 心理実践実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅰ、2 臨床心理実践演習Ⅰ-1、2（福祉分野に関する理論と支援の展開1、2） 精神医学特論1、2（保健医療分野に関する理論と支援の展開1、2）	臨床心理検査特論Ⅱ-1、2 発達障害心理学特論Ⅱ-1、2 芸術療法特論Ⅱ-1、2 健康教育学特論Ⅱ-A、B 心理療法特論Ⅱ-1、2 人格形成特論Ⅱ-1、2 教育発達心理学特論Ⅱ-1、2 自己形成特論Ⅱ-1、2 発達障害臨床学特論Ⅱ-1、2 人間発達特論Ⅱ-1、2 健康行動科学特論Ⅱ-1、2 臨床人間関係学特論Ⅱ-1、2 臨床心理学特論Ⅱ-1、2 臨床心理実習Ⅱ-1、2
表現系	〔表現創造〕 音楽療法特論Ⅰ-1、2 現代絵画特論Ⅰ-1、2 舞踏表現特論Ⅰ-1、2 〔表現文化〕 建築文化史特論Ⅰ-1、2 ファッション文化特論Ⅰ-A、B 音楽文化史特論Ⅰ-1、2 音楽民族学特論Ⅰ-A、B 感性研究特論Ⅰ-1、2 メディア情報社会特論Ⅰ-1、2	〔表現創造〕 音楽療法特論Ⅱ-1、2 現代絵画特論Ⅱ-1、2 舞踊表現特論Ⅱ-1、2 〔表現文化〕 建築文化史特論Ⅱ-1、2 音楽文化史特論Ⅱ-1、2 音楽民族学特論Ⅱ-A、B メディア情報社会特論Ⅱ-1、2 感性研究特論Ⅱ-1、2 ファッション文化特論Ⅱ-A、B
行動系	スポーツ文化史特論Ⅰ-1、2 身体システム特論Ⅰ-1、2 身体コンディショニング特論Ⅰ-1、2 運動心理学特論Ⅰ-1、2 身体運動処方特論Ⅰ-1、2 スポーツバイオメカニクス特論Ⅰ、2 スポーツ指導法特論Ⅰ、2 健康増進科学特論Ⅰ-1、2 身体機能加齢特論Ⅰ-1、2 行動適応特論Ⅰ-1、2 スポーツジェロントロジー特論Ⅰ-1、2 エイジング特論Ⅰ-1、2 身体機能調節特論Ⅰ-1、2 健康行動加齢特論Ⅰ-1、2 応用身体運動科学特論Ⅰ-1、2	スポーツ文化史特論Ⅱ-1、2 身体システム特論Ⅱ-1、2 身体運動処方特論Ⅱ-1、2 身体コンディショニング特論Ⅱ-1、2 運動心理学特論Ⅱ-1、2 健康増進科学特論Ⅱ-1、2 身体運動技術特論Ⅰ、2 身体機能加齢特論Ⅱ-1、2 エイジング特論Ⅱ-1、2 身体機能調節特論Ⅱ-1、2 スポーツジェロントロジー特論Ⅱ-1、2 健康行動加齢特論Ⅱ-1、2 行動適応特論Ⅱ-1、2 応用身体運動科学特論Ⅱ-1、2
教育系	〔教育科学〕 科学教育カリキュラム特論Ⅰ-1、2 教育方法学特論Ⅰ-1、2 科学教育原理特論Ⅰ-1、2 教育制度特論Ⅰ-1、2 社会認識教育内容特論Ⅰ-1、2 西洋教育史特論Ⅰ-1、2 〔子ども発達〕 数理認識発達特論Ⅰ-1、2 乳幼児教育保育特論Ⅰ-1、2 乳幼児発達特論Ⅰ-1、2 身体運動発達特論Ⅰ-1、2 家庭保育特論Ⅰ-1、2 児童造形表現特論Ⅰ-1、2 児童文学表現特論Ⅰ-1、2 〔発達支援〕 ジェンダー文化学習特論Ⅰ-1、2 ジェンダー・コミュニティ支援論1、2 社会教育・サービスマーケティング支援論1、2 発達支援技術論1、2 生涯学習支援特論Ⅰ-1、2 自然共生地域支援論1、2 自然共生地域支援特論Ⅰ-1、2 インクルーシブ社会支援論1、2 エンパワメント支援特論Ⅰ-1、2 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅰ-1、2	〔教育科学〕 科学教育カリキュラム特論Ⅱ-1、2 教育方法学特論Ⅱ-1、2 科学教育原理特論Ⅱ-1、2 教育制度特論Ⅱ-1、2 社会認識教育内容特論Ⅱ-1、2 西洋教育史特論Ⅱ-1、2 〔子ども発達〕 数理認識発達特論Ⅱ-1、2 乳幼児教育保育特論Ⅱ-1、2 乳幼児発達特論Ⅱ-1、2 身体運動発達特論Ⅱ-1、2 児童造形表現特論Ⅱ-1、2 家庭保育特論Ⅱ-1、2 児童文学表現特論Ⅱ-1、2 〔発達支援〕 ジェンダー文化学習特論Ⅱ-1、2 自然共生地域支援特論Ⅱ-1、2 エンパワメント支援特論Ⅱ-1、2 生涯学習支援特論Ⅱ-1、2 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅱ-1、2

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



心理系

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程（臨床心理学コースを含む）での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることでできる人材を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

相澤直樹 准教授 *

臨床心理学、臨床心理検査（投影法）

青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

赤木和重 准教授

発達障害心理学

自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

安達友紀 助教 *

臨床心理学、慢性痛

臨床心理学の立場から慢性痛をもつ人のより良い理解と支援について研究しています。集学的治療、認知行動療法、催眠等がテーマです。

伊藤俊樹 准教授 *

臨床心理学、芸術療法

芸術療法・心理療法におけるクライアントのイメージの変化、芸術家の創造性の研究や消費者の深層心理の研究を行っています。

加藤佳子 教授 *

健康心理学、健康教育

心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河崎佳子 教授 *

臨床心理学、発達臨床心理学

聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

齊藤誠一 准教授 *

生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学

思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。

坂本美紀 教授

教育心理学

児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷 冬彦 准教授

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

鳥居深雪 教授

発達障害臨床学

発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

林 創 准教授

発達心理学、教育心理学

幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授 *

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

吉田圭吾 教授 *

臨床心理学、スクールカウンセリング

中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

* 臨床心理学コースを担当

* 発達支援1年履修コースを担当

* 2022年3月退職予定

[修士論文の例]

- 共感が分配行動の発達に及ぼす影響について
- 「仲良くなりたい」自閉症スペクトラム障害者の自己開示——定型発達者との比較を通して
- 自己愛の無関心型および過敏型と攻撃性との関連について
- 大学生の領域自尊感情の検討
- 青年期における就職活動前に生じる不安と対処方略および精神的健康との関連の検討
- 児童は日常的な場面をどのようなストーリーとして捉えるか——絵カード配列課題の説明を通して
- 発達障害者のきょうだいのスティグマに関する研究——多面的調査ときょうだいの体験から
- 自己愛の無関心型および過敏型と攻撃性との関連について
- 青年期における母娘関係と境界例心性——箱庭を用いて 箱庭の投影法的利用の検討
- 描画を通じた精神科入院児の心理的支援に関する研究



表現系 表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、およびコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

〔専門分野と研究テーマ〕

岡崎香奈 准教授

音楽療法、即興演奏

即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

関典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

〔修士論文の例〕

- 臨床現場における音楽療法士の聴取技能——インタビューの質的分析から
- コンテンポラリーダンスにおける振付創作プロセス——上演場所で創作された作品を対象に
- 「日本」を主題とした村上隆のスーパーフラットが持つ意味と広がり
- 未来派オペラ『太陽の征服』の美術装飾——画家におけるパフォーマンスの重要性
- 洋楽導入初期における歌曲概念と瀧廉太郎作曲《花》——『音楽雑誌』を中心に

表現系 表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

〔専門分野と研究テーマ〕

梅宮弘光 教授

近代建築史

近代建築史、都市史。日本の近・現代に、人びとが建物や街についてどんなことを考え、何をつくってきたのかを探っています。

谷正人 准教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

平芳裕子 准教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

大田美佐子 准教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

岡野真裕 助教

認知科学、パフォーマンス科学

わざの修得・熟達に重要なことは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

野中哲士 教授

認知科学、生態心理学

わざが見せる独特の秩序と、それがみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

〔修士論文の例〕

- 戦後日本のファッションを取り巻く言説空間の変容——雑誌メディアにおける「ファッション論」の生成と消費
- 合唱練習における指揮者と演奏者間の意図の共有プロセス
- 内モンゴル農村地域におけるインターネット普及に伴う生活スタイルの変化に関する考察
- 音楽と視覚芸術の交差——エリック・サティの音楽をめぐる一考察
- 神戸市の震災復興過程における都市環境の変容に関する研究



行動系

少子高齢化した現代社会において、私達は多様化・複雑化した多くの課題に直面しています。自らが自立して生きがいと幸福感を持ち、活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達とエイジングなどに関わる様々な課題について、多角的・学際的観点からアプローチし、人間行動に関する高度な知識と多様な研究手法を修得して、問題解決できる能力を育成します。

〔専門分野と研究テーマ〕

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ学

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学的方法により解明します。

石原 暢 助教

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

岡田修一 教授 *

加齢の身体運動科学

高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木村哲也 准教授

身体運動システム論

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授

運動生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行っています。

高田義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディショニングやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探索しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探索しています。

中村晴信 教授

公衆衛生学、行動医学、生理人類学

生活習慣と疾病予防・健康増進との関係を、体格・体組成や食行動に着目し、心理・生理・行動面から総合的に研究しています。

原田和弘 准教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 准教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

* 2022年3月退職予定

〔修士論文の例〕

- 子どものスポーツ政策に関する国際比較研究——日本とニュージーランドの比較を通して
- 走運動における走速度と足の着地様式の関係
- 精神性ストレスが安静時および運動時の動的な体温調節反応に及ぼす影響
- 自閉症スペクトラム障害者のエピソード記憶に関する研究——符号化処理とソースモニタリングに着目して
- マスターズスポーツにおけるイベントマネジメントの日豪比較：EMBOKモデルの領域（Domains）を援用して
- 中央競技団体における統合・インクルージョンに関する研究：障害者スポーツに着目して
- 野球におけるバットの特性と打撃パフォーマンスの関係に関する研究——バットの重心位置及び長さが打撃に及ぼす影響
- 認知バイアスにおける加齢の影響：オプションフレーミング課題による検討
- 循環・立位バランス両調節システム協働効果の検討
- 大型スポーツイベント開催による組織間ネットワークの形成過程に関する研究——関西広域参画組織に着目して

教育系 教育科学

社会が直面する様々な教育課題を対象とした教育科学研究を行います。高度な専門知識や技術を有し、リーダーとして貢献できる研究者、教員、教育行政職等を養成します。

〔専門分野と研究テーマ〕

稲垣成哲 教授

科学教育

科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。

山口悦司 准教授

科学教育

人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

吉永 潤 教授

社会認識教育論

社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。

川地亜弥子 准教授

教育方法学

人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

山下晃一 准教授

教育制度論、教育経営学

現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的關係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学

20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

〔修士論文の例〕

- 兵庫県の公立高等学校入学試験における総合選抜制度の歴史研究——西宮学区の制度衰退から廃止に着目して
- 教育改革者としてのルードヴィヒ・グーリット——初期ヴァンダーフォーゲルへの関与に着目して
- 科学技術の社会問題を題材とした教育プログラムの開発と評価：他者の視点取得を活用した提言作成能力の育成を目指して

教育系 子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

〔専門分野と研究テーマ〕

岡部恭幸 教授

数理認識論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

木下孝司 教授

発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

勅使河原 君江 准教授

美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

長谷川 諒 特命講師 *

音楽教育学、音楽教育哲学

サウンドペインティングと呼ばれる即興演奏に注目し、既成の美の基準に囚われずに音楽することの意義について研究しています。

北野幸子 准教授

乳幼児教育学、保育学

乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

国土将平 教授

身体発達発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定

子どもの身体の発達や健康、体力、運動能力・動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育や生活環境との関係を探っています。

中谷奈津子 准教授

保育学、家族関係学

認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

目黒 強 准教授

児童文学、国語教育

近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

* 2021年9月退職予定

〔修士論文の例〕

- 中国の幼児の集団遊びと運動能力の関係について——上海公立幼稚園を事例として
- 生活発表会を通じた子どもの育ちや学びと保育者の専門性について——K幼稚園の生活発表会の実践を通して
- 位置測位データを活用した子どもの室内遊びの実態——一人ひとりの子どもの遊びの可視化をめざして

教育系 発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

〔専門分野と研究テーマ〕

稲原美苗 准教授 *

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

清野未恵子 准教授 *

自然共生社会、野生動物管理、ESD

農山村地域の人と野生動物の共生を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

津田英二 教授 *

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

松岡広路 教授 *

社会教育論、福祉教育・ボランティア学習論

ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育および福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

喜屋武 享 助教 *

子どもコミュニティ支援論

グローバル化と子どもの育ち、子どもコミュニティ支援論を担当。多文化化や拡大する経済格差における子どもの現実をふまえながら、子どもの育ちを実践的に研究しています。

〔修士論文の例〕

- 市民の公共性涵養に寄与するNPO中間支援組織の今後の役割と課題——エンパワメント型支援についての考察
- 福祉教育・ボランティア学習における〈当事者性の邂逅〉の意義と課題
- 子育て中の女性のキャリア形成支援——子供が小学生になる危機に着目して

* 発達支援1年履修コースを担当

人間環境学専攻

人間環境学講座 環境先端科学講座(連携講座)

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。

本専攻の修了生は、人間環境に関わる豊富な専門知識とそれを応用する能力をもとに、実践的に行動する力を有し、多様な進路で活躍することを期待されます。前期課程では、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど、多様な分野で活躍できる人材を養成します。後期課程では、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。

教育研究分野

環境基礎科学系

人間の生存・生活に関係する環境の成り立ちを理解し、問題・課題を発見するために、環境汚染、気候変動、生物多様性、情報環境などに関し、自然科学・数理科学にもとづく研究を進めます。

- ◎自然環境論（素粒子物理学、宇宙物理学、惑星環境物理学、地質古生物学、地球化学、分子生物学、生物有機化学、高分子化学、光合成酵素科学、進化生態学、植物生態学、水域生態学、環境バイオテクノロジー）
- ◎数理情報環境論（計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学、位相的データ解析）

環境形成科学系

人間の発達を支える環境をつくる技術、システム、政策・制度のあり方を探求するために、生活科学・工学・農学・社会科学にもとづき、生活・社会環境に関する幅広い問いに取り組めます。

- ◎生活環境論（生活空間計画、環境保健学、環境リスク学、緑地環境学、環境経済学、環境政策、環境システム工学、食環境学、衣環境学、感性工学、ヒューマンエレクトロニクス）
- ◎社会環境論（社会保障、社会政策、労使関係、福祉国家、災害被災者の生活問題、途上国政治経済、比較政治、人文地理学、環境地理学、地域研究、地域社会論、移民社会論、社会思想、社会学史）

環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探究します。

- ◎大気化学、炭素循環、生物地球化学、マイクロ流体工学、環境分析化学、ナノバイオ計測工学

取得可能な資格免許

中学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、社会）、高等学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、公民）

修了後の進路

資格免許の取得状況



カリキュラム（主な専攻専門科目）

講座	教育研究分野	前期課程	後期課程
人間環境学	環境基礎科学系	〔自然環境論〕 粒子物理学特論Ⅰ-1、2 環境光合成科学特論Ⅰ-1、2 宇宙環境物理学特論Ⅰ-1、2 植物多様性特論Ⅰ-1、2 超分子化学特論Ⅰ-1、2 環境地質学特論Ⅰ-1、2 環境バイオテクノロジー特論Ⅰ-A、B 環境有機化学特論Ⅰ-1、2 環境適応科学特論Ⅰ-1、2 惑星環境物理学特論Ⅰ-1、2 環境分子生命科学特論Ⅰ-1、2 環境基礎物質科学B-1、2 環境基礎物質科学C-1、2 環境基礎生命科学A-1、2 環境基礎生命科学B-1、2 自然環境先端科学A 〔数理情報環境論〕 統計推測特論Ⅰ、2 非線形数理特論Ⅰ-1、2 統計解析特論Ⅰ、2 情報論理学特論Ⅰ-1、2 数式処理特論Ⅰ-1、2 応用幾何学特論Ⅰ-1、2 応用トポロジー特論Ⅰ-1、2	〔自然環境論〕 粒子物理学特論Ⅱ-1、2 環境光合成科学特論Ⅱ-1、2 宇宙環境物理学特論Ⅱ-1、2 植物多様性特論Ⅱ-1、2 生体超分子化学特論Ⅱ-1、2 環境地質学特論Ⅱ-1、2 環境有機化学特論Ⅱ-1、2 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ-A、B 環境適応科学特論Ⅱ-1、2 惑星環境物理学特論Ⅱ-1、2 〔数理情報環境論〕 統計の多重比較特論Ⅰ、2 非線形数理特論Ⅱ-1、2 応用統計解析特論Ⅰ、2 数式処理特論Ⅱ-1、2 応用幾何学特論Ⅱ-1、2 情報論理学特論Ⅱ-1、2 応用トポロジー特論Ⅱ-1、2
	環境形成科学系	〔生活環境論〕 衣環境特論Ⅰ-A、B 植物環境学特論Ⅰ-A、B 生活環境共生特論Ⅰ-1、2 生活環境共生特論Ⅰ-A、B 食環境学特論Ⅰ-A、B 電子応用機能特論Ⅰ-A、B 生活空間計画特論Ⅰ-A、B 健康環境科学特論Ⅰ-1、2 〔社会環境論〕 社会変動特論Ⅰ-A、B 産業社会構造特論Ⅰ-A、B 労働社会論特論Ⅰ-A、B 国際社会構造特論Ⅰ-A、B 農村地域構造特論Ⅰ-A、B 都市地域構造特論Ⅰ-A、B 社会環境思想史特論Ⅰ-A、B	〔生活環境論〕 衣環境特論Ⅱ-A、B 植物環境学特論Ⅱ-A、B ライフスタイル特論Ⅱ-A、B 食環境学特論Ⅱ-A、B 生活環境共生特論Ⅱ-A、B 電子応用機能特論Ⅱ-A、B 生活空間計画特論Ⅱ-A、B 健康環境科学特論Ⅱ-1、2 〔社会環境論〕 社会変動特論Ⅱ-A、B 国際社会構造特論Ⅱ-A、B 農村地域構造特論Ⅱ-A、B 都市地域構造特論Ⅱ-A、B 産業社会構造特論Ⅱ-A、B 労働社会論特論Ⅱ-A、B 社会環境思想史特論Ⅱ-A、B
環境先端科学 （後期課程のみ）	環境先端科学		大気環境科学特論A、B 環境ストレス科学特論A、B 生物地球化学特論A、B 生体環境先端計測特論A、B

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



環境基礎科学系 自然環境論

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的な諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

〔専門分野と研究テーマ〕

青木茂樹 教授

素粒子・宇宙線物理学

ニュートリノ振動に関する実験や成層圏で宇宙から飛来するガンマ線を観測する気球実験など宇宙の成り立ちに関わる研究をしています。

蘆田弘樹 准教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物学

植物などの光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産への応用について研究しています。

伊藤真之 教授

宇宙物理学、科学教育

人工衛星等による観測に基づく宇宙の研究や、科学技術領域における市民のエンパワーメントに関する実践研究等を行っています。

丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学

花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 准教授

生物有機化学

生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授

古環境学、地質古生物学、水環境学

地球環境の長期変動のメカニズム解明に向けた海洋古環境の研究と兵庫県河川の水循環の研究を行っています。

近江戸 伸子 教授

環境資源植物科学

資源植物の機能性、遺伝特性、環境適応性について、ゲノム・染色体・遺伝子についての研究を行っています。

窪田 薫 助教

古気候・古海洋学、炭素循環

海洋生物の殻や骨格に保存される微量元素や安定／放射性同位体から過去の情報を取り、気候変動・海洋環境・炭素循環を研究しています。

佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学

環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とx線回折法を用いて研究を行っています。

高見泰興 准教授

進化生態学

昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

田中成典 教授

計算生物学、理論生命科学

タンパク質や核酸等の分子シミュレーションやミクロな原子レベルから計算機上で構築する理論生命科学について研究しています。

谷 篤史 准教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学

物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 准教授

環境生理学、水域生態学、感染症生態学

環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

〔修士論文の例〕

- 環境DNA分析を用いたため池の生物多様性を規定する要因の解明
- 雄性両性同株植物ツルクサにおける花形態の性的二型——送粉プロセスに着目して
- 交尾器形態の形質置換と交雑コスト回避の検証
- RNA Polymeraseを用いた種々の糖鎖修飾RNAの合成DNAポリメラーゼを用いた糖・鎖修飾DNAの合成およびその酵素的導入における反応速度論解析
- メタン菌Methanosaeta concilii RuBisCOの酵素学的特性の解析
- 低波数ラマン分光法によるコラーゲンモデル化合物の高次構造とその熱挙動
- 「かぐや」ARD観測 210Po α線による月面ラドンガス放出箇所検出
- エマルションガンマ線望遠鏡による2018年豪州気球実験——姿勢モニター部の開発および多段シフター全面積解析
- ベーリング海における最終氷期の底生有孔虫群集解析
- 微量元素および同位体組成を用いた有馬型温泉水の地球化学的特徴



環境基礎科学系 数理情報環境論

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性を身につけ、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

[専門分野と研究テーマ]

稲葉太一 准教授

数理統計学、応用統計学、データ解析

統計手法は、適用分野によって異なる側面があります。医学統計の分野における多重比較法の適用範囲を広げる事を研究しています。

Emerson Gaw Escolar 助教

位相的データ解析、表現論

データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授

応用解析学

物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授

数理統計学

株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

長坂耕作 准教授

計算機代数、計算機科学

パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

宮田任寿 教授

幾何学的トポロジー

Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学的性質（次元など）について研究しています。

[修士論文の例]

- 最適化理論に基づく植物の成長スケジュールについて
- 非同分布に対する情報量規準の正当性
- 有限体上でのパラメータを含む1変数多項式の因数分解
- タブレットを用いた電子楽譜の課題と可能性の追求
- String models and fractal dimensions
- LMSを用いた中等数学の学習段階の可視化
- 特異摂動法を用いた海の波の解析
- FDR基準による多重検定の適用範囲の考察と改善
- 直交不変推定量を用いた線形判別分析とその誤判別確率の漸近展開
- 有限集合の位相とホモトピー



環境形成科学系 生活環境論

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

【専門分野と研究テーマ】

井上真理 教授

衣環境学、感性工学

繊維製品の着心地・使い心地を材料特性から理論的に解析し、環境負荷の低減も考慮した製品設計を提案する研究を行っています。

大野朋子 准教授

緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授

環境経済学、環境政策論

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授

環境システム工学（土木工学）

私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

平山洋介 教授

生活空間計画

住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。

福田博也 准教授

生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

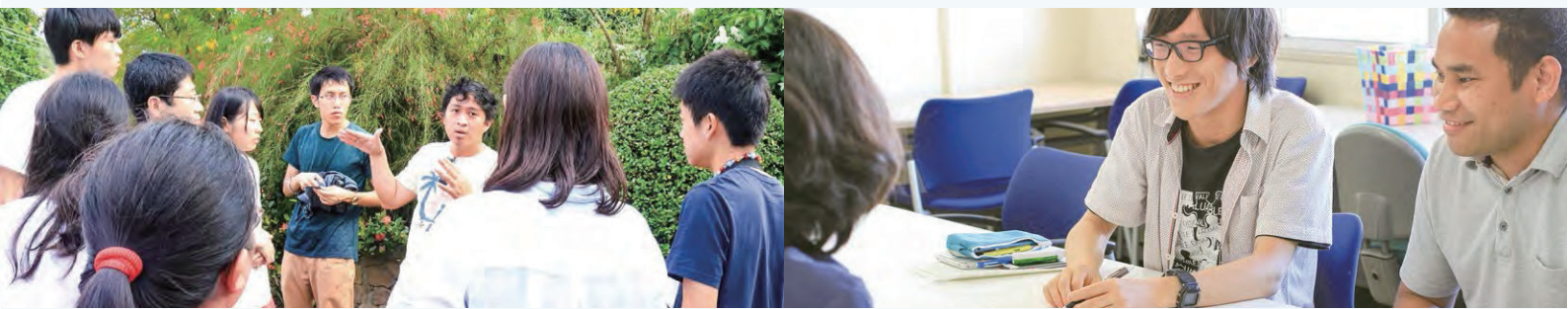
湯浅正洋 助教

食環境科学

未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

【修士論文の例】

- 持ち家社会における子どもの貧困と住宅——日伊比較より
- 介護施設における圧力センサを用いた嚥下動作の検出
- 中高年単身者の都市居住とライフスタイル——日独比較分析から
- 中国における公的賃貸住宅の役割——ライフステージと社会階層の分析から
- コロンビア・ワヒラ県における石炭採掘による経済的・生態的影響の推定——自然資本資産、不平等および経済成長の関係分析
- 中国大同市黄土高原における緑化の進展が日本人緑化ボランティアの意識の変化に及ぼす影響
- ひずみゲージを用いた柔軟な薄型せん断力センサの開発
- 都市生態系の経済評価と保全
- 都市における生態系サービス評価とコミュニティの対応
- 神戸南京町中華街の形成と持続における不動産の役割——店舗所有者・経営者・従業員に対する調査を通じて



環境形成科学系 社会環境論

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、社会学、経済学、政治学、歴史学、地理学、社会思想など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

[専門分野と研究テーマ]

浅野慎一 教授 *

社会文化環境論、社会学

国境を越えて移動する人々を対象として、歴史に翻弄されながらも、新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。

井口克郎 准教授

社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題

社会保障制度を必要とする人々とそれになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

岩佐卓也 准教授

社会政策、労使関係

労働をめぐるルールとそれを形成する労使関係がどのように変容しているのか、日本とドイツを主な対象に研究しています。

太田和宏 教授

途上国政治経済、比較政治

グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

澤 宗則 教授

人文地理学、地域社会論、移民社会論

日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授

社会思想、社会学史

現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 助教

地域研究、環境地理学

おもにアフリカ農村を対象として、社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人びとの暮らしを住民の視点から研究しています。

* 2022年3月退職予定

[修士論文の例]

- 現代日本における新たな「家族」の可能性
- 地域に生きる子どもの主体性と安心・安全なまちづくり
—— 大阪・千里ニュータウンを事例にして
- 中国におけるアイドルファンの実態—— 偏見・差別と人間発達
- 中国の貧困削減政策の展開と課題
—— 山西省「ターゲットを絞った貧困支援」戦略を実例として
- 中国人技能実習生の帰国後の労働・生活と社会意識
- 場所の喪失と場所への愛着—— 阪神・淡路大震災を事例に
- 経営者報酬の社会的側面
- 負の遺産の記憶と展示をめぐるダークツーリズム
- ストリートミュージシャンという生き方
—— 自己表現と公共性のはざまで
- 動物と人間の共生—— 保護・管理・権利の狭間で
- 道德教育のジェンダー非対称性
—— 『私たちの道德』読み物教材の計量分析から
- 日本における寄付文化—— マッチング寄付の分析
- ウェーバー理論からみる中国近代化と儒教資本主義論

環境先端科学 後期課程の連携講座

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

斉藤拓也 准教授

大気化学、生物地球化学

オゾン層破壊や温暖化に関わる大気中のガス状有機物について、自然界からの放出量や変動メカニズムを理解するための研究をしています。

遠嶋康徳 教授

大気化学、炭素循環

大気中炭素量の僅かな変化を測定することにより、地球表層での炭素収支や大気-海洋間のガス交換の解明に係る研究を行っています。

永井秀典 准教授

マイクロ流体工学

単一細胞から遺伝子を高速増幅する技術や、イムノアッセイ等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムの研究を行っています。

脇田慎一 教授

環境分析化学、ナノバイオ計測工学

ナノバイオテクノロジーによるバイオセンサ等の研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証に関する研究を行っています。

主な協定校

神戸大学と人間発達環境学研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術および教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。

交換留学について

学生交流協定を締結している大学との間では、学生交換を行っています。協定校へ交換留学に行く場合、協定校へ授業料を納める必要がなく（留学中の授業料は神戸大学に納める必要があります）、交換留学先で履修した授業科目について、本研究科で単位認定を受けることができます。また、EUの一部の大学へは、Erasmus+（大学間の学生・スタッフの交流を目的としたEUによる教育資金助成プログラム）による学生派遣も行っています。

国・地域	教育研究機関	国・地域	教育研究機関
シンガポール Singapore	南洋理工大學 Nanyang Technological University *	オーストリア Austria	FHヨアネウム応用科学大学 FH Joannrum University * グラーツ大学 University of Graz *
タイ Thailand	カセサート大学 Kasetsart University *	オランダ Netherlands	ライデン大学 Leiden University *
マレーシア Malaysia	マラヤ大学 University of Malaya	スイス Switzerland	バーゼル大学 University of Basel *
大韓民国 Korea	ナザレ大学 Korea Nazarene University * 釜山国立大学 Pusan National University * ソウル国立大学 Seoul National University * 国立済州大校 Jeju National University * 中央大校 Chung-Ang University * 梨花女子大校 Ewha Womans University	スペイン Spain	バルセロナ大学 University of Barcelona *
中華人民共和国 China	北京師範大学 Beijing Normal University * 華東師範大学 East China Normal University * 南京大学 Nanjing University * 中国人民大 Renmin University of China 上海交通大 Shanghai Jiao Tong University * 香港大 The University of Hong Kong * 清華大 Tsinghua University * 武漢大 Wuhan University *	スロバキア Slovakia	コメニウス大 Comenius University
台湾 Taiwan	国立台湾大 National Taiwan University * 国立政治大 National Chengchi University * 国立成功大 National Cheng Kung University *	チェコ Czech	カレル大 Charles University *
インドネシア Indonesia	スマランPGRI大 Universitas PGRI Semarang	ノルウェー Norway	オスロ・アーケシュフース大 Oslo Akershus University
フィリピン Philippines	サンベダ大 San Beda College * アテネオ・デ・マニラ大 Ateneo de Manila University *	ドイツ Germany	キール大 Kiel University * トリアー大 Trier University * ドレスデン工科大 Technical University of Dresden * ハンブルク大 Universitat Hamburg * ミュンヘン工科大 Technical University of Munich * ダルムシュタット工科大 Technische Universität Darmstadt * ベルリン自由大 Free University of Berlin *
ネパール Nepal	トリブバン大 Tribhuvan University	ハンガリー Hungary	エトヴェシュ・ローランド大 Eotvos Lorand University *
モンゴル Mongolia	モンゴル国立大 National University of Mongolia *	フランス France	リヨン高等師範学校 Ecole Normale Supérieure de Lyon * リール大 Université Lille * パリ第2(パンテオン・アサス)大 Université LParis 2 Panthéon-Assas パリ大(パリ・ディドロ大) Université de Paris * パリ・ナンテル大 Université de Paris Nanterre *
バングラデシュ Bangladesh	IUBAT—International University of Business Agriculture and Technology	ブルガリア Bulgaria	ソフィア大 Sofia University St. Kliment Ohridski *
オーストラリア Austria	クイーンズランド大 The University of Queensland * 西オーストラリア大 The University of Western Australia * ウーロンゴン大 University of Wollongong * ニューサウスウェールズ大 The University of New South Wales *	ベルギー Belgium	ブリュッセル自由大 Vrije Universiteit Brussel *
米国 USA	ピッツバーグ大 University of Pittsburgh ジョージア工科大 Georgia Institute of Technology * 南フロリダ大 The University of South Florida	ポーランド Poland	ヤゲウォ大 Jagiellonian University in Krakow * ニコラウス・コペルニクス大 Nicolaus Copernicus University in Toruń *
カナダ Canada	オタワ大 University of Ottawa * ウェスタンオンタリオ大 The University of Western Ontario	リトアニア Lithuania	ヴィリニウス・ゲディミナス工科大 Vilnius Gediminas Technical University *
イタリア Italy	ヴェネツィア大 Ca' Foscari University of Venice * ボローニャ大 University of Bologna *	ロシア Russia	サンクトペテルブルク大 Saint-Petersburg State University *
英国 United Kingdom	ロンドン大アジア・アフリカ研究院(SOAS) School of Oriental and African Studies, University of London * ロンドン大 University College London		

* 交換留学制度のある協定校

キャリア教育

人間発達環境学研究科では、所属する大学院生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。



1 充実したバックアップ体制

学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するキャリアサポートセンターを設置しており、大学院生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。

2 各種セミナー、ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援（就活スケジュール、エントリーシート作成、業界・企業・仕事研究、グループディスカッション練習、面接対策など）、教員採用試験対策講座、各自治体教育委員会からの説明会、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、OBOG訪問会（業界・企業、仕事研究）、キャリア講座などを開催しています。

3 就職、進路、キャリアに関する個別相談

専任のキャリアアドバイザーが常駐し、就職活動、或いは、進路・キャリア形成全般に関する支援を、個別面談という形で行っています。具体的には、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論作文フィードバック、模擬面接、進路・キャリアなどに関する相談に対応しています。

施設紹介



図書館

神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める学術雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースも利用することができます。



学内ネットワーク、教育用端末

鶴甲第2キャンパスのほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。また、神戸大学では、教育・研究・学習の目的で、Apple社のiMacを約1300台設置しており、鶴甲第2キャンパスにおいても利用することができます。



ラーニングcommons

ラーニングcommonsとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。鶴甲第2キャンパスには、4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

募集人員と入試日程（2022年4月入学）※ 詳細については、学生募集要項でご確認ください。

博士課程前期課程

専攻	募集人員	講座	受験区分
人間発達	51名 (※1)	人間発達	心理系／臨床心理学／表現系／行動系／教育系
	4名		1年履修コース
人間環境学	36名 (※2)	人間環境学	自然環境論／数理情報環境論／生活環境論／社会環境論

※1 募集人員51名のうち、臨床心理学コースの募集人員10名程度と社会人特別入試若干人及び外国人留学生特別入試若干人を含みます。
※2 募集人員36名は、推薦入試（出願期間：2021年5月24日[月]～26日[水]、試験期日：2021年7月3日[土]）の募集人員18名と社会人特別入試若干人及び外国人留学生特別入試若干人を含みます。

博士課程後期課程

専攻	募集人員	講座	受験区分
人間発達	11名	人間発達	心理系／表現系／行動系／教育系
人間環境学	6名	人間環境学	自然環境論／数理情報環境論／生活環境論／社会環境論
		環境先端科学（連携講座）	環境先端科学

奨学金制度

本学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります。各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除（全額免除・半額免除）の制度があります。

学生募集について

人間発達環境学研究科
博士課程前期課程 入試

人間発達環境学研究科
博士課程後期課程 入試



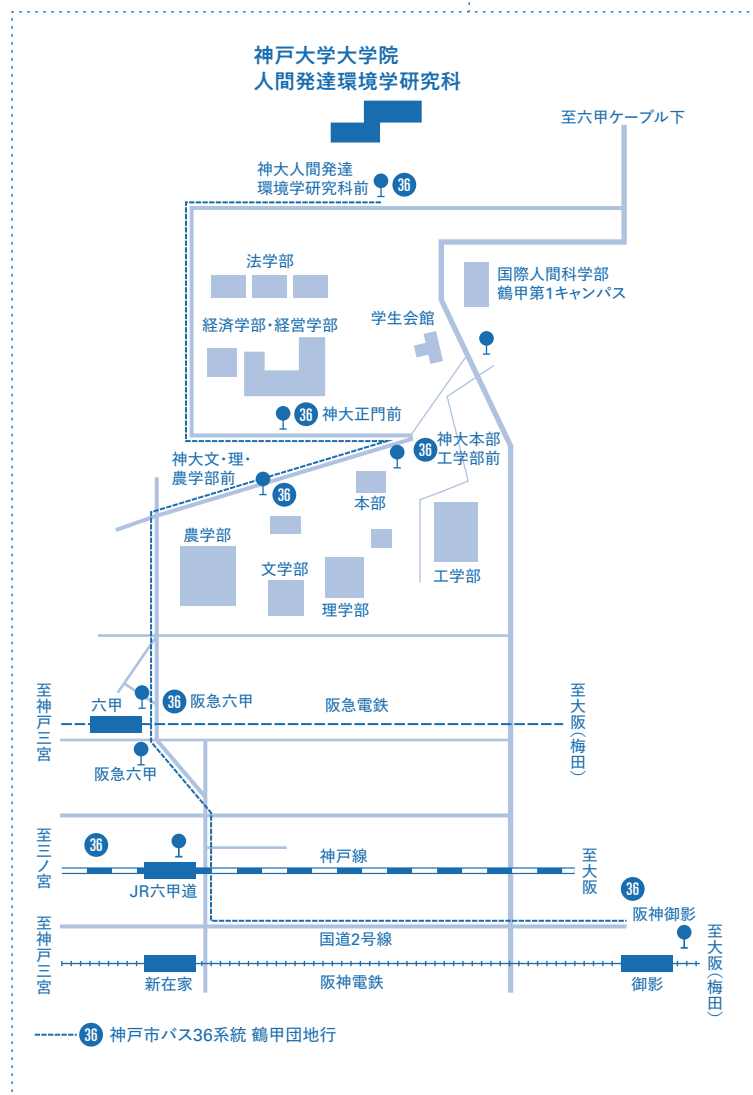
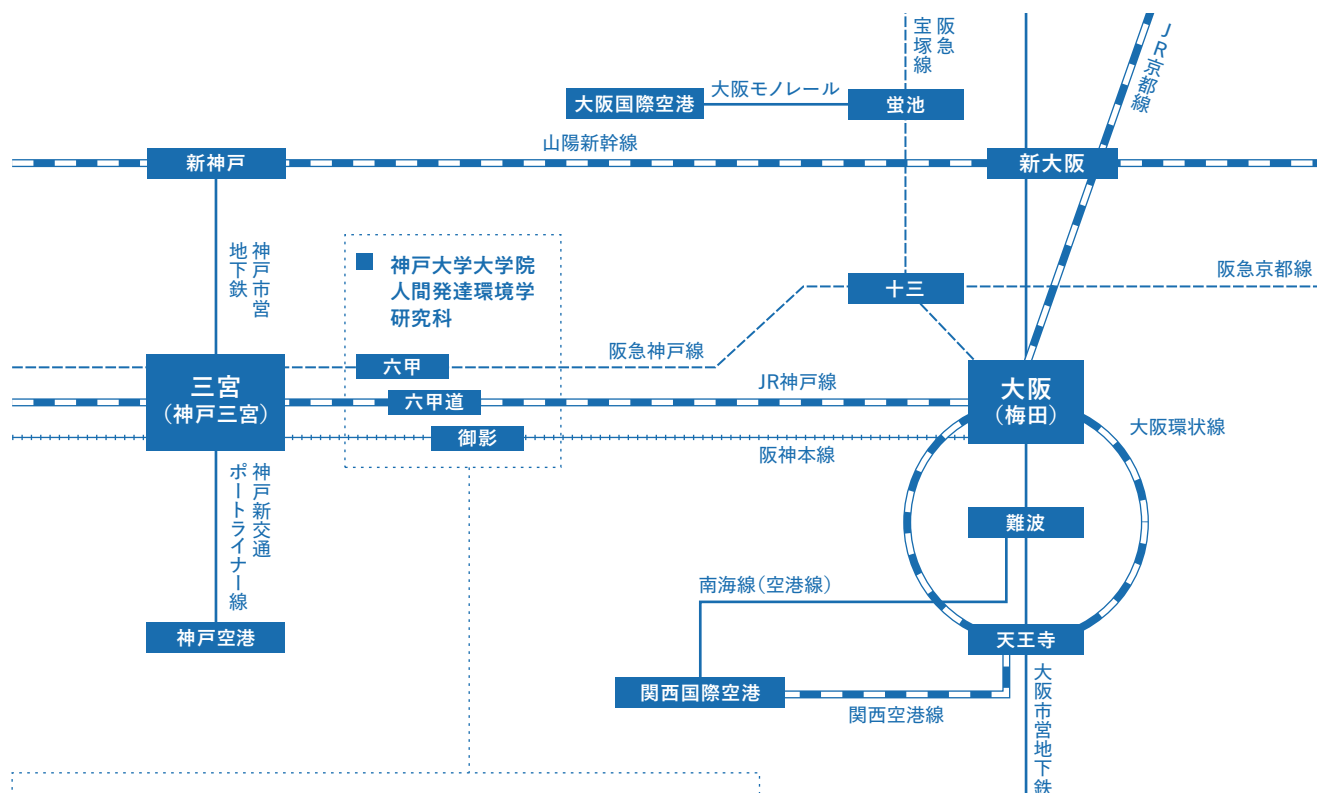
入試に関するお問い合わせ

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係
〔所在地〕 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
〔電話〕 078-803-7920、078-803-7924
〔メール〕 edu-info@h.kobe-u.ac.jp

沿革

1874年 10月 兵庫県師範伝習所設置
1877年 1月 神戸師範学校と改称
1886年 4月 兵庫県尋常師範学校と改称
1898年 4月 兵庫県師範学校と改称
1900年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
1900年 4月 兵庫県師範学校を兵庫県第一師範学校と改称
1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
1919年 4月 兵庫県立農学校甲種別科設置
1923年 3月 兵庫県立農業補習学校教員養成所として兵庫県立農学校甲種別科が独立
1935年 6月 兵庫県立農業補習学校教員養成所を兵庫県立青年学校教員養成所と改称
1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校を包括し官立移管
1944年 4月 兵庫青年師範学校として兵庫県立青年学校教員養成所を官立移管
1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
1965年 4月 神戸大学教育専攻科を設置
1981年 4月 神戸大学大学院教育学研究科修士課程を設置
1992年 10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程を設置
2005年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
2013年 4月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科の4専攻（心身発達専攻、教育・学習専攻、人間行動専攻、人間表現専攻）を1専攻（人間発達専攻）に改組
2017年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を再編統合し、国際人間科学部を設置

Access アクセス

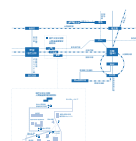


最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗り、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
TEL 078-803-7924 FAX 078-803-7929
<https://www.h.kobe-u.ac.jp>

2021年4月発行



表紙作品：「サクラダイ」 大路裕也（やまなみ工房）

